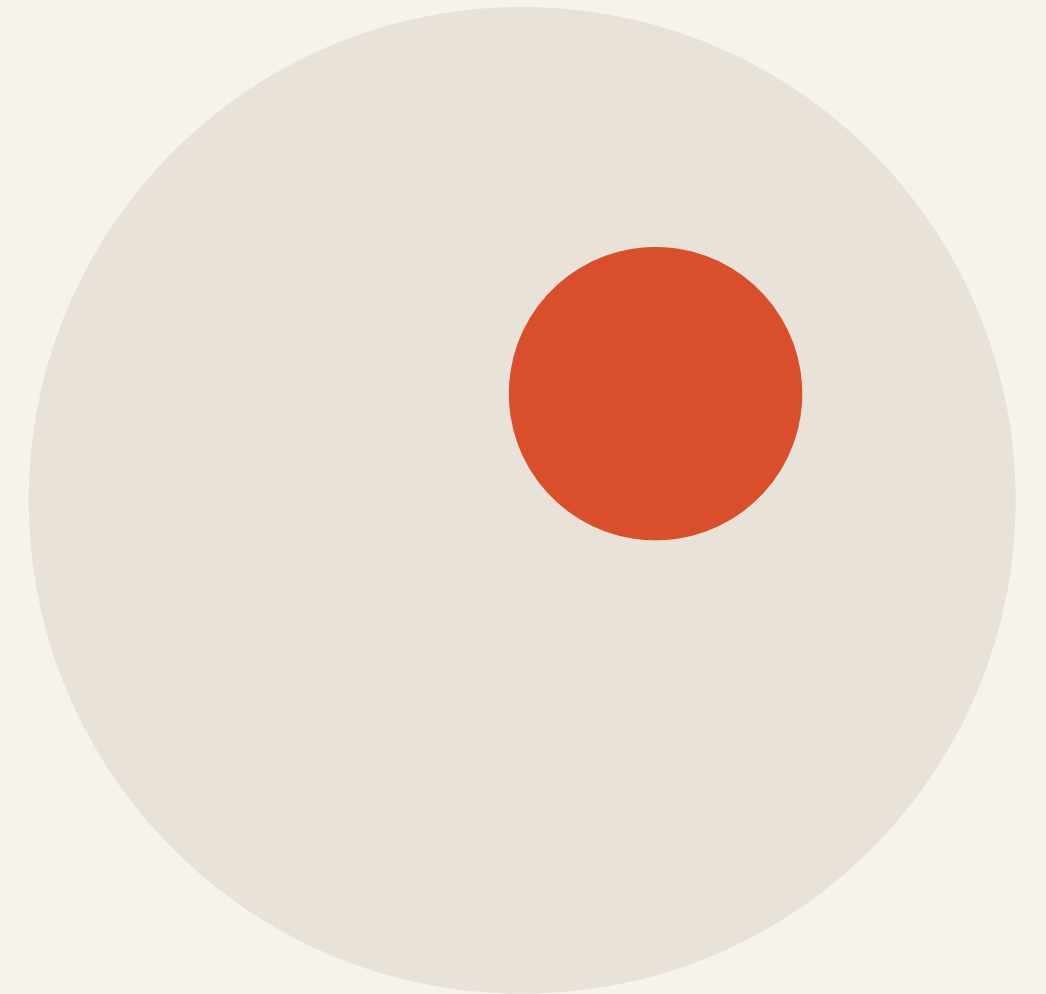


スーツ以後の 仕事着

知的労働者のための
ビジネスワークウェア提案

WORKWEAR FOR DESK WORKERS

スーツの延命ではなく、
仕事着の再発明。



ビジネス服は、まだスーツを基準にしている。

「洗える」「伸びる」「軽い」「涼しい」。
近年のビジネスウェアは機能化しているが、多くはまだ“スーツを楽にした服”にとどまっている。

軽量化

従来型スーツの素材を置き換える

ストレッチ化

動きやすくするが、形はスーツ

ウォッシュャブル化

手入れは楽に。ただし設計思想は同じ

スニーカー対応

足元だけ更新し、服本体は残る

問い：本当に必要なのは「楽なスーツ」なのか？

働き方は、すでに変わっている。

現代の仕事は、かつてのスーツが想定した働き方ではない。
身体の使い方、移動、気候、画面越しの見え方が変化している。

長時間PC作業

椅子に座り続ける身体に、硬い服は合いにくい。

在宅 / 出社の往復

家の快適さを知った身体が、従来の窮屈さに戻れない。

オンライン会議

上半身の清潔感が必要だが、全身のフォーマル性は不要になる。

酷暑と移動

日本の高温多湿な環境では、軽さ・通気・洗濯性が重要。

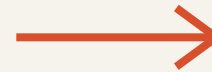
「働く身体」に合わせて、服も再設計されるべきではないか。

ホワイトカラーの記号が揺らいでいる。

AIの台頭により、知的労働の不可侵性は揺らぎ始めている。
スーツが象徴してきた「権威」「信用」「階層性」も、再考のタイミングにある。

従来のスーツ

均質性 / 権威 / 規律 / 対外的信用 / 身体性の抑制



これからの仕事着

実用性 / 快適性 / 自律 / 協働性 / 働く身体への敬意

価値の中心は「身分の記号」から「労働する身体」へ。

周辺アイテムは、すでに変化している。

靴と鞆では、ビジネスの記号を残しながら、スポーツ/ワーク由来の機能性へ移行している。

SHOES

革靴 **革靴風スニーカー**

外観はビジネス、履き心地はスポーツ。

BAGS

革製鞆 **ナイロンリュック**

軽量、PC収納、撥水、両手が空く。

足元と鞆は変わった。次は、ジャケットとシャツではないか。

しかし、服本体だけが遅れている。

ビジネスの周辺アイテムは機能化した。
一方でジャケットとシャツは、まだ「スーツらしさ」を守るための更新が中心である。

減算の発想

ネクタイを外す。ジャケットを脱ぐ。素材を軽くする。
スーツを少し楽にする。

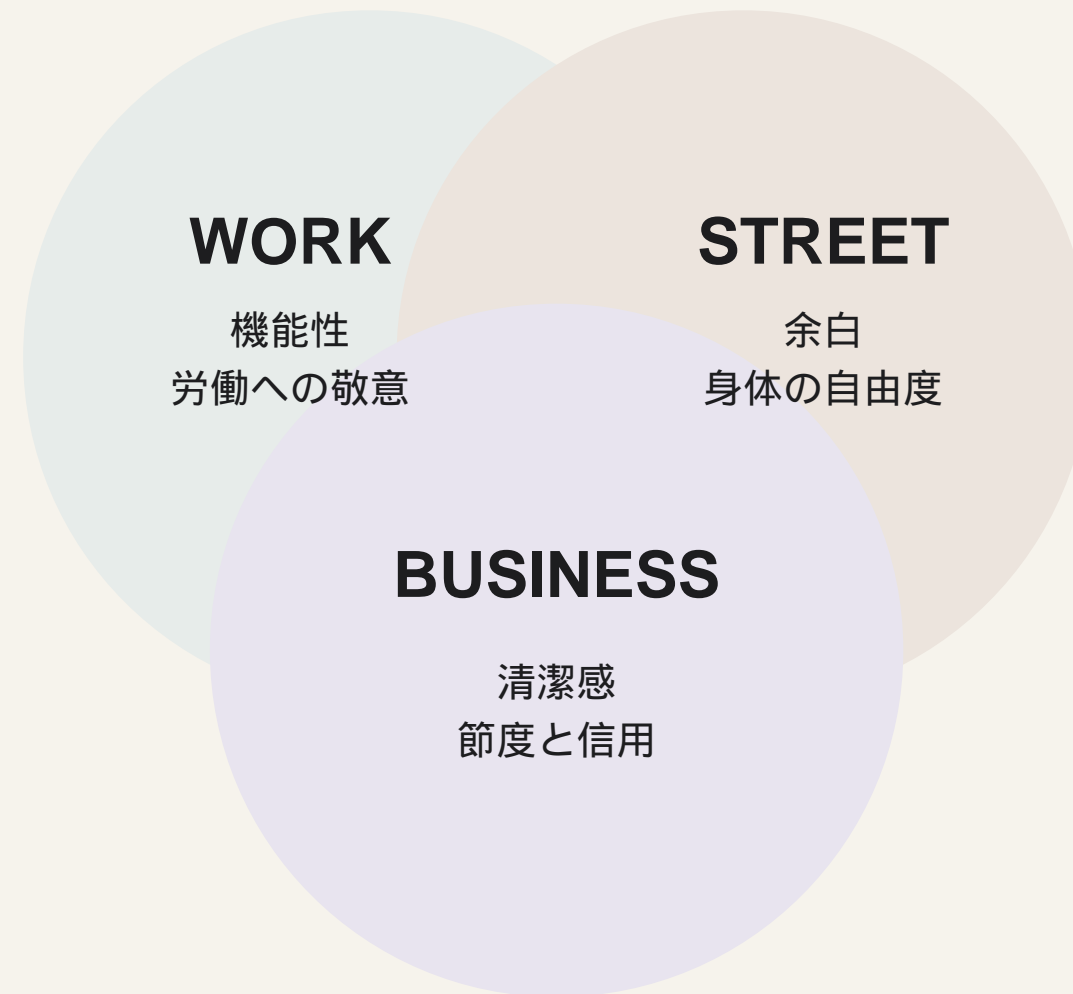
再設計の発想

働く身体、気候、移動、画面越しの見え方から、仕事着
を作り直す。

必要なのは「スーツの延命」ではなく、「仕事着の再発明」。

提案：ビジネスワークウェア

ワークウェアとストリートウェアの身体性から、
ビジネス服を再構築する。



**BUSINESS
WORKWEAR**

スーツではなく、現代の作業服。

設計原則

1 シャツアウト前提
座る・動く・腹部を締め付けない着丈設計

2 リラックスシルエット
身幅と袖幅に余裕。ただし袖丈は整える

3 洗えて乾きやすい素材
T/C、ポリエステル、ナイロン混、形態回復性

4 職場に耐える色
ネイビー、チャコール、黒、グレー、生成り

5 ロゴではなく構造で主張
派手さよりも、縫製・ポケット・素材の意味

6 スニーカーとリュックに合う
足元と鞆の変化に服本体を接続する

取り入れるのは、ストリーートの記号ではなく「身体自由度」。

商品イメージ

01

Business Work Jacket

- ・テーラード未満、カバーオール未満
- ・身幅広め、肩まわりに余裕
- ・T/Cツイル、綿ポリ、軽量合繊
- ・ジャケットより柔らかく、作業着より上品

02

Business Work Shirt

- ・シャツアウト前提の着丈
- ・ポリ、綿ポリ、オックスフォード
- ・身幅広め、襟付きで清潔感
- ・ドレスシャツではなく“仕事用トップス”

03

Business Work Pants

- ・ワイドテーパードまたはストレート
- ・センタープレスなし / 弱め
- ・座りやすく、洗えて、乾く
- ・セットアップでも単品でも成立

会議に出られる。作業できる。洗える。疲れない。

既存市場とのポジショニング



スーツ屋の機能服でも、高感度ファッションでもない。
ワーク起点で、実際のオフィスに耐える価格と節度を持つ領域。

着用シーン

社内会議

威圧感ではなく、整った清潔感。

オンライン会議

上半身はきちんと、身体は楽に。

移動日

スニーカーとリュックに自然につながる。

企画作業

座り続けても疲れにくい。

カフェ作業

私服すぎず、仕事着すぎない。

展示会・視察

歩ける、動ける、でも崩れない。

“ 出社するための服 ” ではなく、“ 働くための服 ”。

これは、服の企画であり、労働観の提案である。

スーツを快適化するのではなく、
ワークウェアとストリートウェアの文脈から、
現代の知的労働者のための仕事着を再構築する。

スーツの延命ではなく、仕事着の再発明。

参考にした周辺事例

完全な答えはまだ少ない。しかし、近い動きは複数の領域に点在している。

TE Ä TORA

デスクワーカー / 都市生活者のためのワークウェア再定義

WWS

作業着とスーツを接続した“スーツに見える作業着”

FreshService

ユニフォーム / ワークの文脈を日常着に再構成

RED KAP / Dickies

本物のワークウェアをファッションへ接続

WORKMAN / ミドリ安全

量産力・機能素材・低価格の可能性

革靴風スニーカー / ナイロンリュック

周辺アイテムにおける機能化の進行

この提案は、既存事例の延長ではなく、それらを“オフィスワーカーの作業服”として再編集する試みである。